ワンヘルスってなんだろう？　連載　第③弾

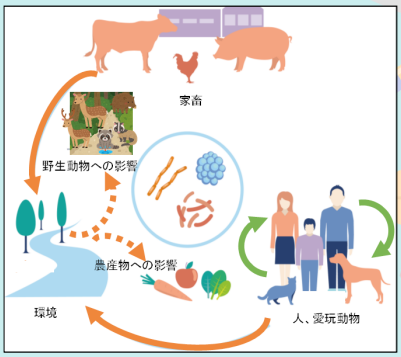
■　前回のおさらい

○　ワンヘルスとは、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守ろうとする取組。
ここでは、福岡県が策定したワンヘルス推進行動計画の「7 つの柱」をご紹介しています。

柱 2　薬剤耐性菌対策

ペニシリンなどに代表される抗微生物薬は、研究開発以降、それまで死因の上位を占めていた肺炎や結核等の感染症の治療に大きな成果を上げてきました。しかし、感染症治療のために抗微生物薬が使われるようになると、それらに対して抵抗力を獲得した「薬剤耐性菌」が生じるようになりました。さらに、新しい抗微生物薬が開発されると、それに耐性を持つ薬剤耐性菌が生じる、といったことが繰り返されています。画期的な抗微生物薬を開発することは大変難しく、また莫大なコストと時間がかかることから利益を生みにくく、多くの企業が開発から撤退する要因となっています。

抗微生物薬の開発が停滞すると、薬剤耐性菌による感染症にかかった場合に、治療が大変難しい状況になります。このような事態を避けるためにも、県では ①県民や県内の医療、獣医療、農林水産業等関係者の方への普及啓発、②国の動向調査への協力や、県内の動向調査及び監視、③感染予防対策の向上を図る感染予防や管理、④抗微生物薬の適正使用推進の４点について、国と連携して取組を進めています。



▲薬剤耐性菌は、人だけでなくペットや環境にも影響を与えます

柱 3　環境保護（生物多様性の保全）

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。生物多様性は私たちの暮らしに不可欠な水や食料をはじめ、心の潤いや多様な文化など、様々な恵みをもたらすものであるとともに、自然災害の防止や軽減にも寄与しており、人と動物の健康、人と自然との共生の確保にもつながることから、持続可能な社会を実現する上で極めて重要です。

また、宿主動物の多様性、そして宿主の多様性を高める生態系の多様性が高いほど、新たな病原体が人へ感染するようになるリスクが低下する可能性が研究により示唆されています。

しかし近年、人の開発行為による生態系の変化、外来種の侵入などにより、急速に生物多様性の損失が進んでいることが指摘されています。このため、県では生物多様性の保全のほか、地球温暖化対策をはじめとする環境保護に取り組んでいます。

生物多様性の保全により、病原体の脅威から私たちの暮らしが守られています。